

葬儀 表白

敬つて

大慈大悲の阿弥陀如来の尊前に

白して言さく

本日ここに

恭しく仏前を莊嚴し

懇ろに聖教を読誦して

年 月 日

歳を一期として

往生の素懷を遂げられし

法名 釈 の

葬儀を勤修し奉る

それ惟れば

人の世に生るること 甚だ難く

たまたま 人身を得るといえども

千載を享受することなし

壯なる者も

かなら おとろ  
必ず衰え

あ  
会えるものには  
べつり なら  
別離の習いあり

まことに はかなきこと  
くさ うえ つゆ ごと  
草の上の 露の如し

おも  
思うに 故人は生前  
こじん せいぜん

くなん こくふく  
さまざまな苦難を克服しつ

ぶつぽう たつと もんぼう けげ  
仏法を尊び 聞法に励み

うつく ねんぶつ ぎやうじや  
美しき念仏の行者として

しょうがい まつと  
その生涯を全うせられたり

しか  
然れども いまや

だいひ がんせん じやう  
大悲の願船に乗じて

しょうじ だいかい わた  
生死の大海を渡り

じやうど うま  
浄土に生れて

しんによほつしやう  
真如法性をさと

だいひ げんそう ことわり  
大悲還相の道理によって

おうげ しめ み たも  
応化を示す身となり給う

ねが  
希わくは

ここに集つどえる道どう俗そく

この悲かなしみを機き縁えんとして

いよいよ深ふかく

如来にょらいの本願ほんがん力を聞もん信しんし

ともどもに

俱く会え一いつ処しよの妙みよう果かを証しやうせんことを

寺 住職

敬うやまつて言もうす